

第2章 市街化調整区域の現状分析

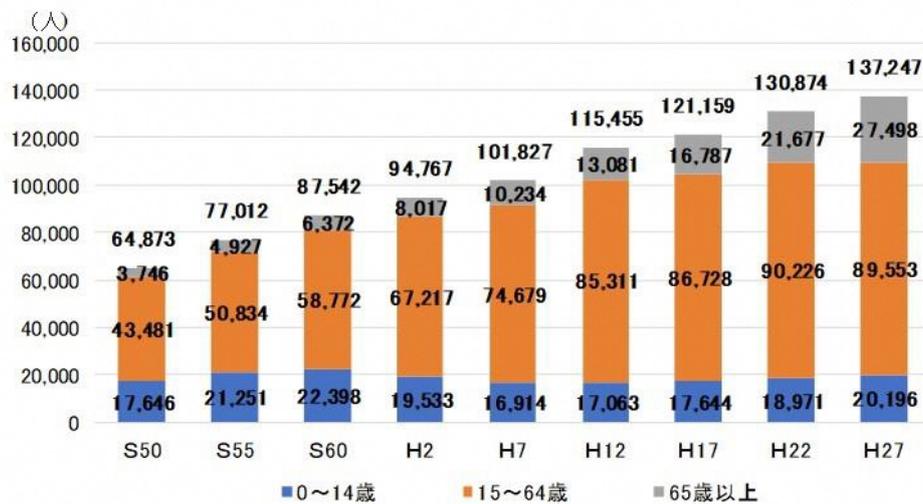
1. 人口等の状況

(1) 人口

① 市全体の状況

- ・草津市の人口はこれまで一貫して増加傾向にあります。
- ・年齢3区分別の推移をみると、老年人口(65歳以上)は人口全体と同様に増加していますが、年少人口(0～14歳)は1985年(昭和60年)がピークで、その後減少したが近年は持ち直しの傾向、生産年齢人口(15～64歳)は2010年(平成22年)がピークで、その後減少に転じています。

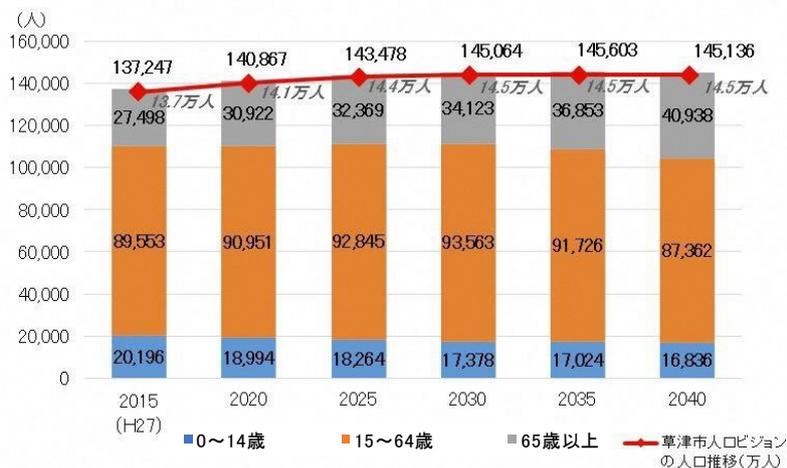
グラフー1. 草津市の人口推移(資料: 国勢調査)



- ・国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、人口の増加傾向は2030年から2040年頃まで続くと予測されています。
- ・年齢3区分別の推移をみると、年少人口(0～14歳)は2015年(平成27年)、生産年齢人口(15～64歳)は2030年がピークであり、老年人口(65歳以上)は2040年まで増加すると予測されています。

グラフー2. 草津市の将来人口予測

(資料: 国立社会保障・人口問題研究所(H25.3推計)、草津市人口ビジョン)



② 市街化調整区域の状況（学区別）

- ・2010年(平成22年)時点では、市街化調整区域内に25,000人程度(市全体の約2割)が居住しています。
- ・2040年時点の将来予測によると、市街化調整区域全体では2010年(平成22年)から3.0%の人口減少が予測されており、山田、常盤、笠縫東、笠縫学区では市街化調整区域全体の傾向よりも人口が減少する見通しです。特に、山田、常盤学区の人口減少率は3割以上となっています。

表-3. 学区別、区域区分別の現状と将来予測

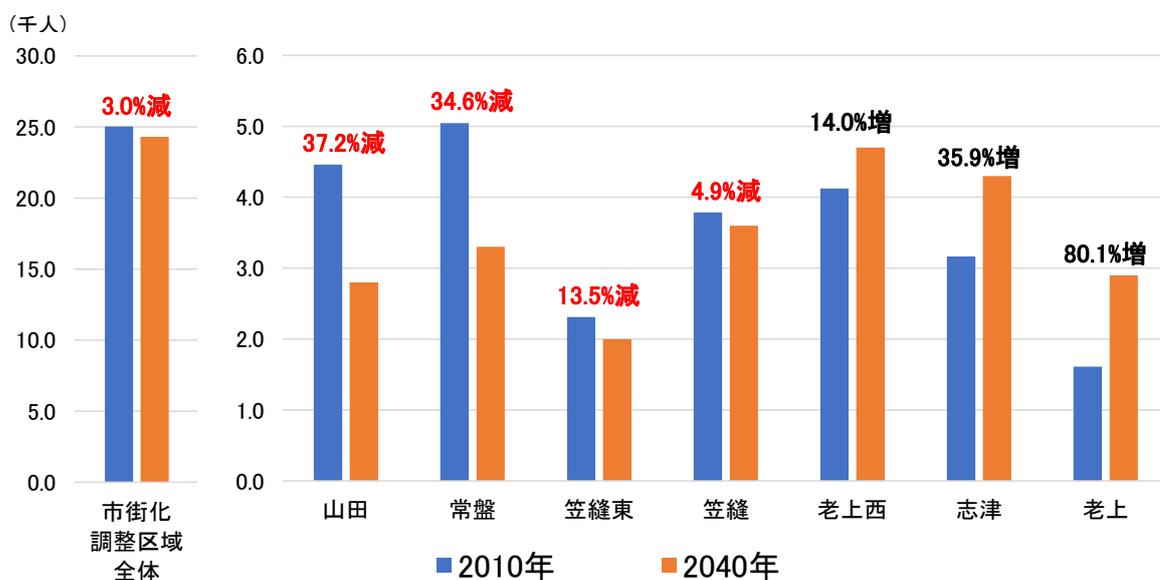
(資料：2010年国勢調査、2040年立地適正化計画基礎調査による推計結果データを100mメッシュ単位で学区毎に積み上げ
合計および学区毎のデータを100の位までの概数としているため、合計値と合わない場合があります)

(単位：千人)

	2010年(H22年)			2040年		
	市街化区域	市街化調整区域	合計	市街化区域	市街化調整区域	合計
市全体	105.8	25.0	130.9	120.8	24.3	145.1
志津	9.1	3.2	12.2	13.7	4.3	18.0
志津南	4.6	0.4	4.9	5.2	0.6	5.8
草津	10.6	—	10.6	8.5	—	8.5
大路	10.7	—	10.7	13.7	—	13.7
渋川	8.2	—	8.2	10.5	—	10.5
矢倉	9.9	—	9.9	12.9	—	12.9
老上	6.5	1.6	8.1	13.0	2.9	15.9
老上西	3.9	4.1	8.0	5.1	4.7	9.8
玉川	14.6	—	14.6	17.4	—	17.4
南笠東	10.1	0.2	10.3	9.0	0.1	9.1
山田	3.6	4.5	8.1	2.1	2.8	4.9
笠縫	6.5	3.8	10.3	4.6	3.6	8.2
笠縫東	7.6	2.3	9.9	5.1	2.0	7.1
常盤	—	5.0	5.0	—	3.3	3.3

※「—」表示は、「該当区域がない」もしくは「人口が0」であることを示します。

グラフ-3. 対象学区の市街化調整区域における将来人口予測(資料：表-3と同様)

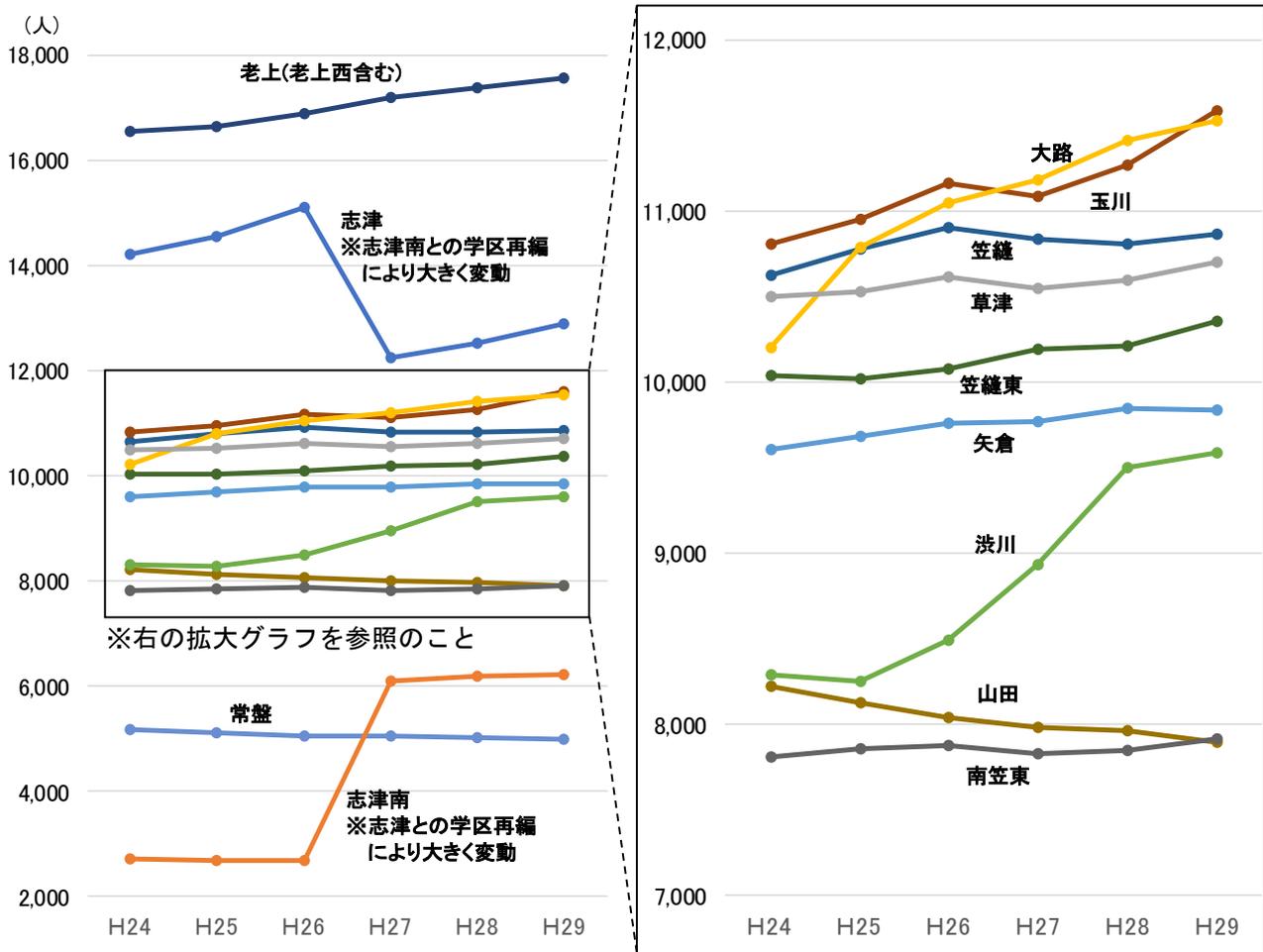


(参考) 近年における学区別の人口動向

- ・2012年(平成24年)と比較した学区別の人口動向をみると、常盤、山田学区が一貫して減少傾向にあり、常盤学区が3.3%、山田学区が4.0%の減少となっています。

グラフ4. 近年における学区別の人口推移

(資料:「学区別・地区別年齢別人口」草津市HP、各年3月31日時点)



(2) 高齢化率

- ・市街化調整区域内の高齢化率(65歳以上人口の割合)は市街化区域より相対的に高く、2010年(平成22年)時点では市街化調整区域全体で21.5%となっています。
- ・2040年での将来予測は、市街化調整区域全体で36.0%まで上昇すると予測されており、特に老上西学区の市街化調整区域では50%以上、笠縫、山田学区は40%以上となっています。

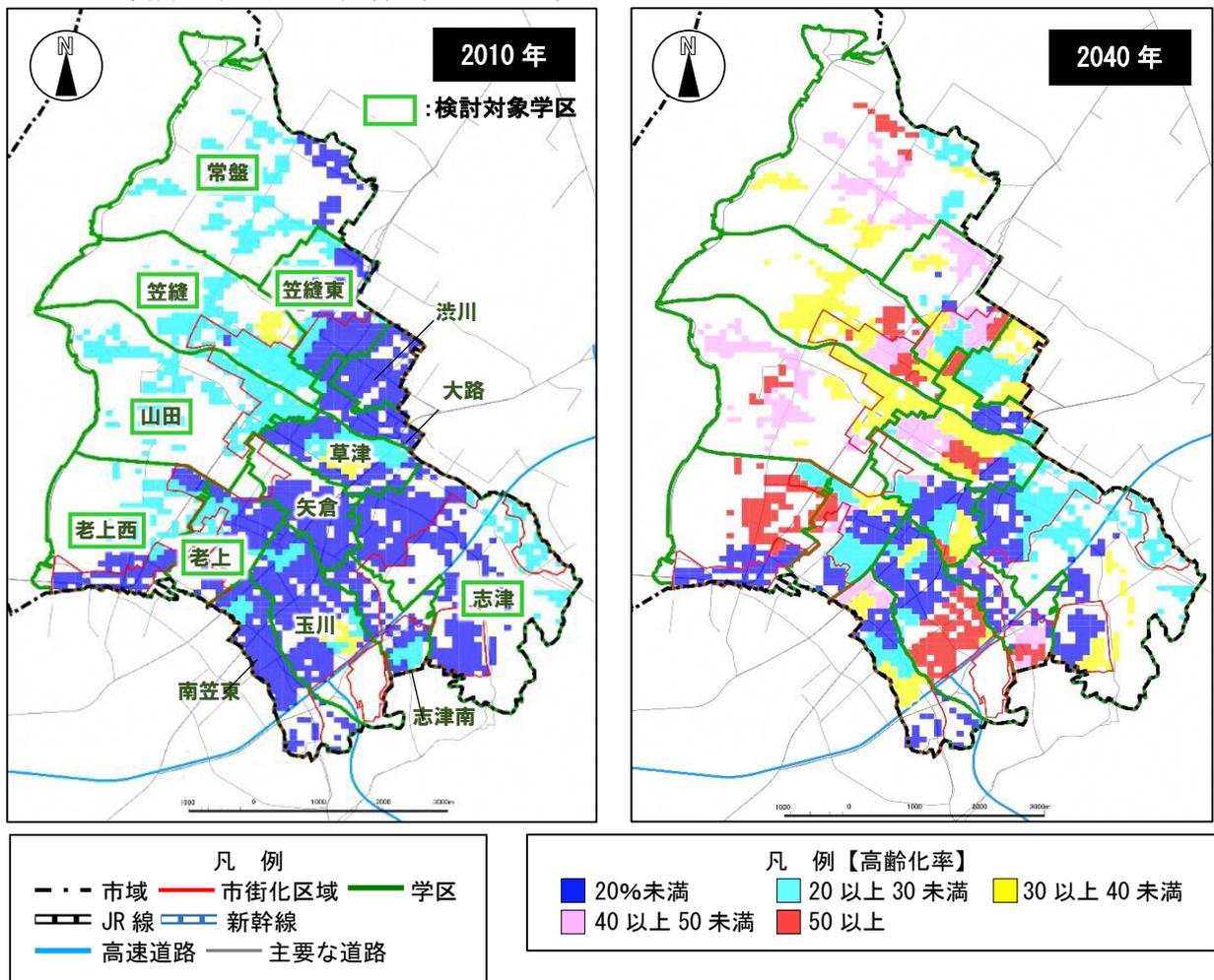
表-4. 高齢化率の現状と将来予測

(資料：2010年国勢調査、2040年立地適正化計画基礎調査による推計結果データを100mメッシュ単位で学区毎に積み上げ)

	2010年(H22年)			2040年		
	市街化区域	市街化調整区域	合計	市街化区域	市街化調整区域	合計
市全体	15.4%	21.5%	16.6%	26.0%	36.0%	27.7%
志津	13.3%	15.8%	14.0%	19.9%	23.2%	20.7%
志津南	15.5%	12.1%	15.3%	29.3%	17.0%	27.9%
草津	19.6%	-	19.6%	32.1%	-	32.1%
大路	13.8%	-	13.8%	21.6%	-	21.6%
渋川	12.9%	-	12.9%	26.3%	-	26.3%
矢倉	17.3%	-	17.3%	26.3%	-	26.3%
老上	12.7%	19.6%	14.0%	21.3%	23.7%	21.7%
老上西	18.4%	24.0%	21.3%	26.5%	52.7%	39.2%
玉川	11.3%	-	11.3%	22.5%	-	22.5%
南笠東	10.6%	0.6%	10.4%	28.1%	5.4%	27.9%
山田	23.4%	24.7%	24.1%	40.1%	41.9%	41.1%
笠縫	25.4%	23.4%	24.7%	42.3%	41.7%	42.1%
笠縫東	17.0%	18.0%	17.3%	38.3%	28.0%	35.4%
常盤	-	22.4%	22.4%	-	37.2%	37.2%

※ “-”表示は、「該当区域がない」もしくは「人口が0」であることを示します。

図-3. 高齢化率の状況(資料：表-4と同様)



2. 生活利便施設の状況

(1) 医療施設

- ・2010年(平成22年)時点における医療施設の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では68.9%となっています。
- ・学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、常盤学区が34.1%と最も低く、次いで老上、山田学区が50%前後と相対的に低い状況となっています。

表-5. 医療施設の徒歩圏人口カバー率(2010年)(資料:国勢調査に基づくメッシュデータ)

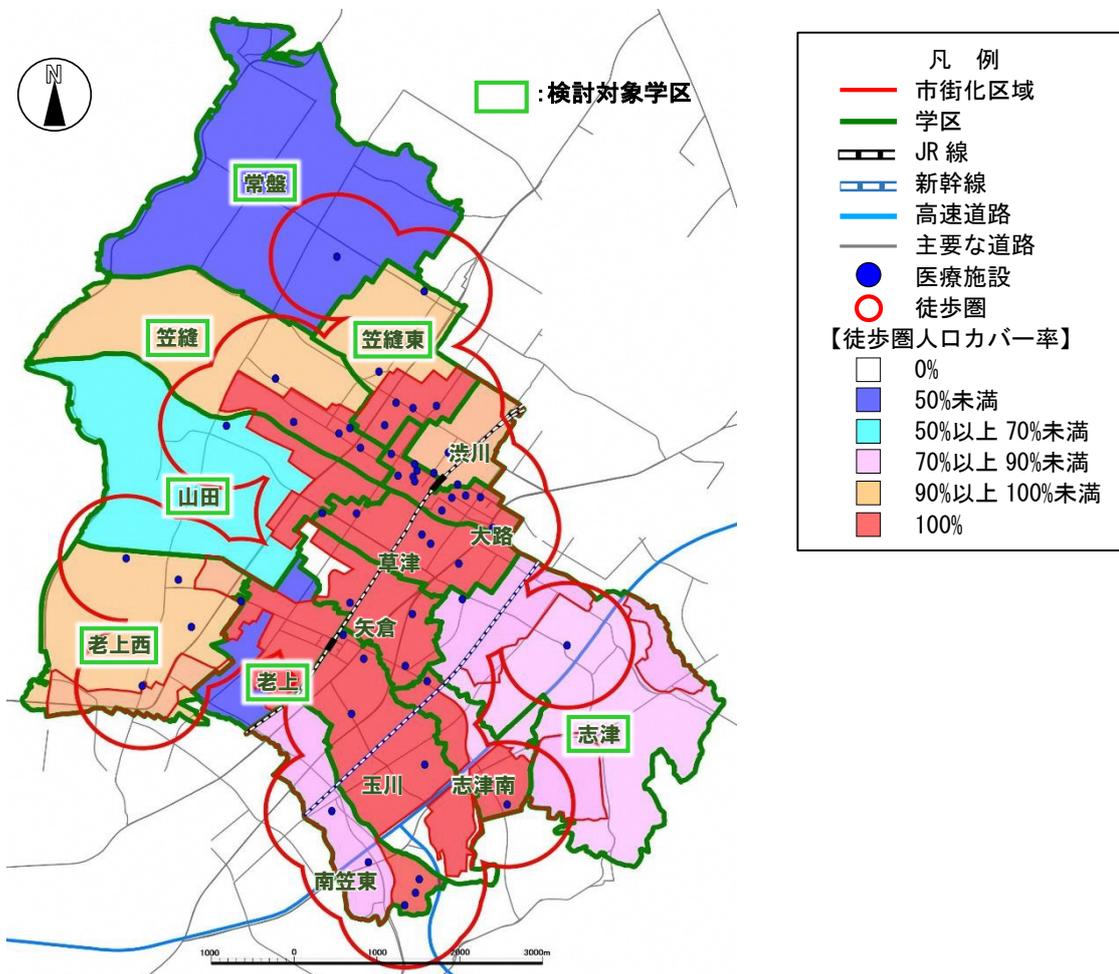
	市街化区域	市街化調整区域	全体
市全体	96.9%	68.9%	91.6%
志津	84.2%	70.2%	80.6%
志津南	100.0%	88.5%	99.1%
草津	100.0%	-	100.0%
大路	100.0%	-	100.0%
渋川	95.9%	-	95.9%
矢倉	100.0%	-	100.0%
老上	100.0%	45.3%	89.1%
老上西	94.3%	98.7%	96.6%
玉川	100.0%	-	100.0%
南笠東	86.9%	100.0%	87.1%
山田	100.0%	51.9%	73.5%
笠縫	100.0%	92.8%	97.4%
笠縫東	100.0%	94.1%	99.4%
常盤	-	34.1%	34.1%

医療施設の定義

- 出典:国土数値情報
- 利用データ:医療施設(病院・診療所で内科または外科を有する施設)
- データ整備年次:平成26年
- 徒歩圏:施設から半径800m

※“-”表示は、「該当区域がない」もしくは「人口が0」であることを示します。

図-4. 学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)



(2) 高齢者福祉施設

- ・2010年(平成22年)時点における高齢者福祉施設の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では82.2%となっており、他施設に比べると相対的に高くなっています。
- ・学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、笠縫学区が43.4%と最も低く、次いで常盤学区が71.2%、志津学区が82.2%と相対的に低い状況となっています。なお、これら以外の学区は100%もしくは100%に近いカバー率となっています。

表-6. 高齢者福祉施設の徒歩圏人口カバー率(2010年)(資料:国勢調査に基づくメッシュデータ)

	市街化区域	市街化調整区域	全体
市全体	98.5%	82.2%	95.4%
志津	91.8%	82.2%	89.3%
志津南	100.0%	99.9%	100.0%
草津	100.0%	-	100.0%
大路	99.2%	-	99.2%
渋川	99.1%	-	99.1%
矢倉	100.0%	-	100.0%
老上	99.2%	95.8%	98.5%
老上西	86.6%	98.9%	92.9%
玉川	100.0%	-	100.0%
南笠東	99.6%	45.5%	98.7%
山田	100.0%	100.0%	100.0%
笠縫	98.4%	43.4%	78.3%
笠縫東	100.0%	95.5%	99.4%
常盤	-	71.2%	71.2%

高齢者福祉施設の定義

【公共介護施設】

- 出典:国土数値情報
- 利用データ:施設分類の通所系施設(細区分101,112,113)
- データ整備年次:平成27年

【民間介護施設】

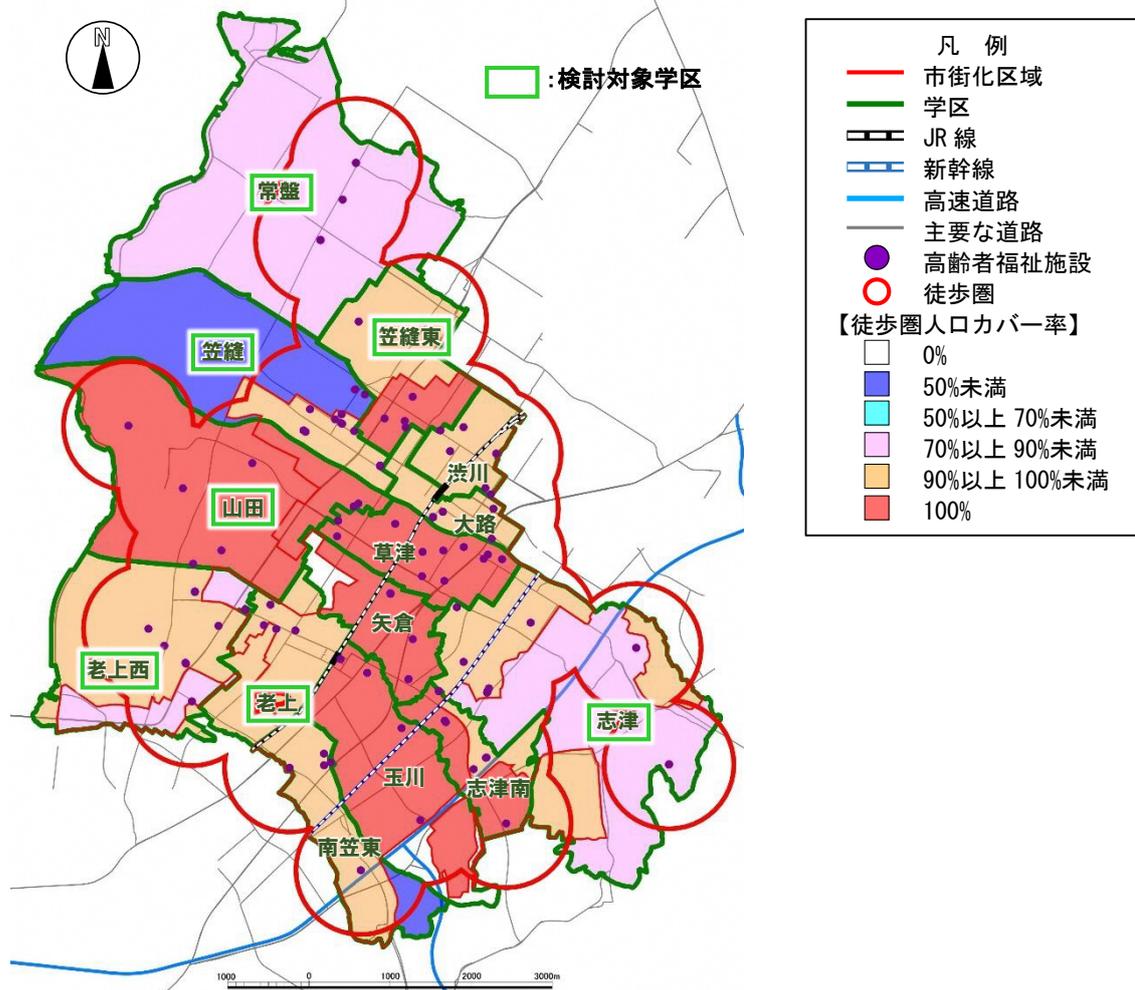
- 出典:厚生労働省介護サービス情報公開システム
- 利用データ:通所系、訪問系施設および小規模多機能施設
- データ整備年次:平成28年

【共通】

- 徒歩圏:施設から半径800m

※ “-” 表示は、「該当区域がない」もしくは「人口が0」であることを示します。

図-5. 学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)



(3) 商業施設

- ・2010年(平成22年)時点における商業施設の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では23.0%となっており、他施設に比べると相対的に低くなっています。
- ・学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、笠縫、常盤学区が0%、志津、山田学区が20%未満と相対的に低い状況となっています。

表-7. 商業施設の徒歩圏人口カバー率(2010年)(資料:国勢調査に基づくメッシュデータ)

	市街化区域	市街化調整区域	全体
市全体	71.9%	23.0%	62.6%
志津	76.1%	15.5%	60.4%
志津南	100.0%	94.2%	99.6%
草津	88.1%	-	88.1%
大路	95.4%	-	95.4%
渋川	80.3%	-	80.3%
矢倉	80.1%	-	80.1%
老上	100.0%	45.3%	89.1%
老上西	71.1%	46.7%	58.5%
玉川	75.3%	-	75.3%
南笠東	0.7%	0.0%	0.7%
山田	87.3%	19.2%	49.8%
笠縫	36.8%	0.0%	23.3%
笠縫東	63.1%	60.4%	62.4%
常盤	-	0.0%	0.0%

商業施設の定義

○出典:

・草津市中心市街地活性化基本計画(H25.12)

・滋賀県HP「大規模小売店舗立地法 本県の届出状況(H18以降)」

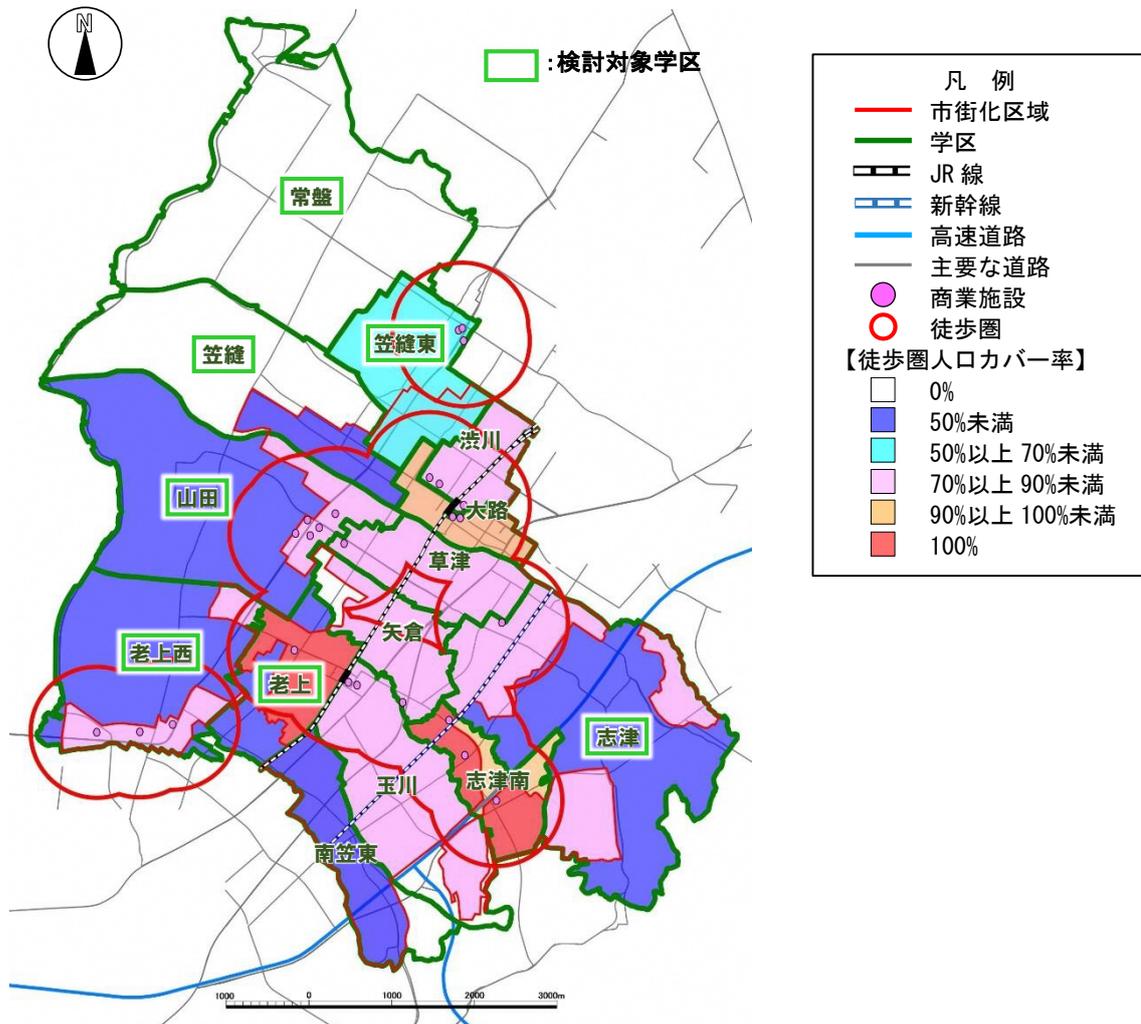
○利用データ:1,000㎡以上の大型小売店舗

○データ整備年次:平成29年

○徒歩圏:施設から半径800m

※“-”表示は、「該当区域がない」もしくは「人口が0」であることを示します。

図-6. 学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)



3. 公共交通の状況

- ・2010年(平成22年)時点における基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率は、市街化調整区域全体では42.4%となっています。
- ・学区別に見ると、対象学区の市街化調整区域では、笠縫東学区が0%と最も低く、次いで老上、常盤、山田学区が相対的に低い状況となっています。
- ・基幹的公共交通路線のカバー率が相対的に低い地域においては、まめバス等の補完公共交通により交通網が整備されています。

表－8. 基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率(2010年) (資料: 国勢調査に基づくメッシュデータ)

	市街化区域	市街化調整区域	全体
市全体	73.1%	42.4%	67.2%
志津	35.6%	45.1%	38.0%
志津南	98.1%	69.1%	95.9%
草津	86.5%	-	86.5%
大路	61.6%	-	61.6%
洪川	98.3%	-	98.3%
矢倉	82.1%	-	82.1%
老上	95.7%	24.4%	81.5%
老上西	53.5%	68.0%	61.0%
玉川	92.1%	-	92.1%
南笠東	81.7%	18.0%	80.7%
山田	6.5%	34.7%	22.0%
笠縫	78.5%	70.2%	75.4%
笠縫東	25.6%	0.0%	19.6%
常盤	-	29.5%	29.5%

基幹的公共交通路線の定義

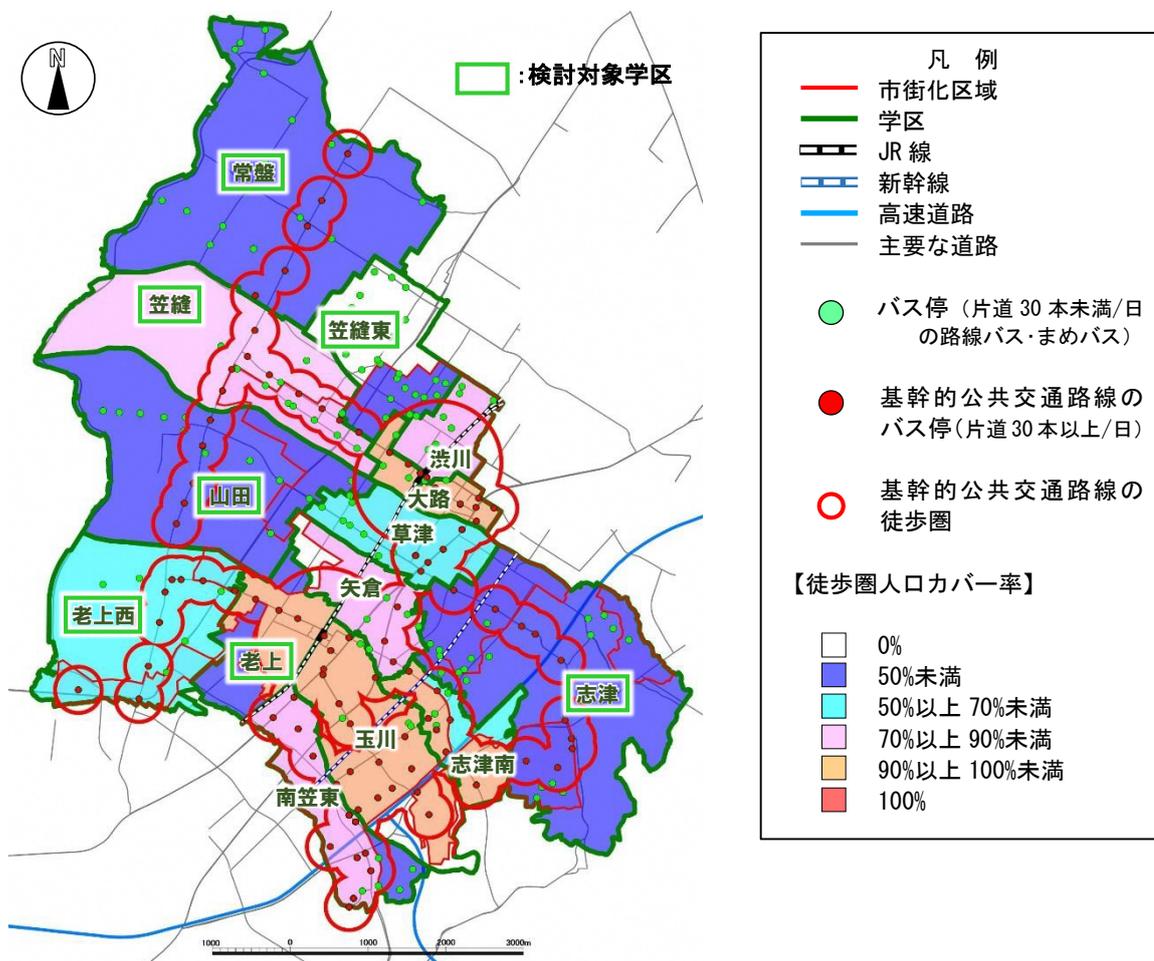
○条件：
 ・片道30本以上/日の鉄道およびバス

○徒歩圏：
 上記の条件を満たす、
 ・鉄道駅から半径800m
 ・バス停から半径300m

○出典：都市構造の評価に関する
 ハンドブック平成26年8月/
 国土交通省都市局都市計画課

※ “-” 表示は、「該当区域がない」もしくは「人口が0」であることを示します。

図－7. 学区単位の徒歩圏人口カバー率の状況(2010年)



4. 地域資源の状況

地域資源とは、自然資源のほか特定の地域に存在する特徴的なものを資源として活用可能と捉え、人的・人文的な資源をも含む広義の総称となっています。

昨今のご当地ブーム、まちおこし、地域ブランドに代表される地域活性化の試みにおいて、特徴・素材となるものを地域資源として定義し、「地域活性化の切り札」として活用する考え方が広がっています。

本計画では、地域の課題の解決および活性化につなげるために必要な地域資源について、関連計画や資源活用の取組み状況、内容等について文献調査を行い、また事業者ヒアリングや市民アンケート（平成 29 年度草津市のまちづくりについての市民意識調査）の結果を踏まえ、「①要素が多く存在すること」「②関連施策と有機的な連携を図ることにより地域の活性化に寄与できる可能性があること」を条件として地域資源を特定した結果、特定される地域資源は、「農水産業」「観光」の区分で大きく仕分けられました。その2つを切り口として、状況と課題の分析を行いました。

<市民アンケート調査>※詳細は、p. 22「市民アンケート調査」を参照

市では毎年、「草津市のまちづくりについての市民意識調査」を行っています。

2017 年度（平成 29 年度）の調査では、「活気があふれるまちをつくるための施策の重要度」に関する回答は、市全体で「観光の振興」が最も多く、次いで「農業の振興」、「中心市街地の活性化」が多い結果となっています。

「主な地域資源としての認知度」に関する回答は、市全体で「烏丸半島など琵琶湖畔」が最も多く、次いで「イナズマロックフェス」、「草津宿場まつり」が多い結果となっています。

<事業者ヒアリング>

各事業者の課題や改善、改革について、また、今後の事業の在り方、実施、実現の可能性等についてのコメントを得ました（産業別に記載）。

【ヒアリング実施内容】

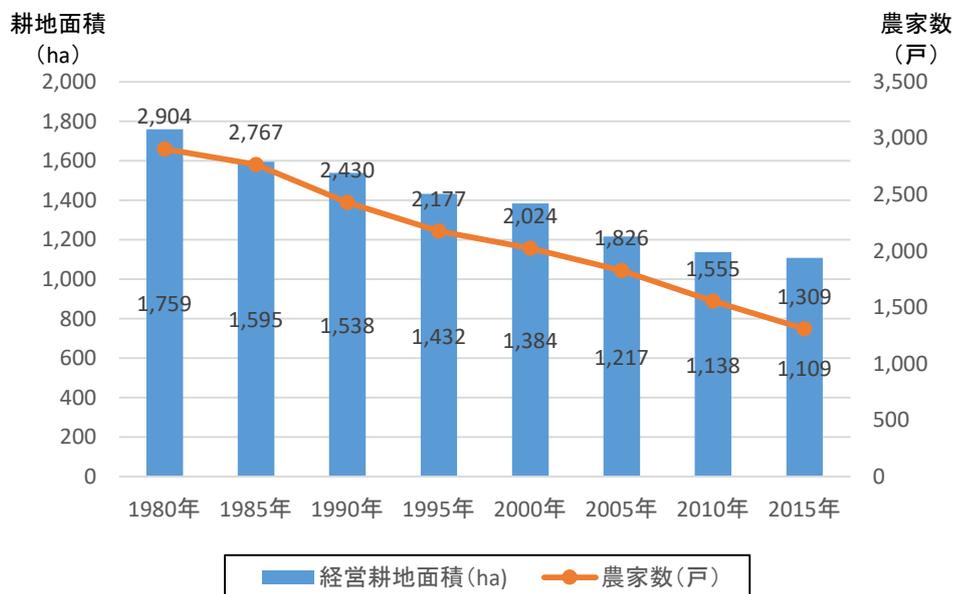
日時	対象
平成 29 年 10 月 12 日（木） 10：00～11：30	【農水産業】（有）からすま農産
平成 29 年 10 月 12 日（木） 13：30～15：10	【農水産業】 JA 草津農産部 草津あおばな館（施設調査）
平成 29 年 10 月 12 日（木） 15：30～16：10	【農水産業】 草津市農林水産課 野菜残さの液肥化実験施設（施設調査）
平成 29 年 10 月 17 日（火） 10：00～11：20	【観光】（株）JTB 西日本
平成 29 年 10 月 17 日（火） 11：30～12：10	【観光】 草津市観光物産協会
平成 29 年 10 月 17 日（火） 13：30～14：10	【産業全般】 草津商工会議所
平成 29 年 10 月 17 日（火） 15：00～15：50	【観光】（株）日本旅行草津支店

(1) 農水産業

■農業経営の実態

本市の農業経営の実態は、農家数、経営耕地面積ともに減少傾向であり、都市化や高齢化、後継者不足などを背景に年々減少しています。

グラフー 5. 経営耕地面積と農家数の推移（資料：農林業センサス）



■本市の農業の特性

- ・本市の農業は、特に大都市への近接性を活かしビニールハウスによる軟弱野菜の栽培が盛んであることが特徴として挙げられます。北山田町、下笠町を中心に園芸、出荷組合と個人栽培者が集まって生産団地が形成されており、約 2,000 棟のビニールハウスにおいて年 3 回程度作付けられており、近畿最大級の施設野菜産地となっています。
- ・水菜、大根、ネギなどは、県内でも主力の生産地となっており、近年では、特産の草津メロンの作付けがされ、伝統野菜では山田ねずみ大根の生産が行われています。一方、花き、果樹の生産農家は減少しています。
- ・都市化が進み、農地の減少が続く一方で、市街地（消費地）に隣接することが好条件ともなっています。子育て世代の転入が増えており、食の安全・安心に関するニーズがさらに高まると想定され、学校給食における新鮮で安全な食材の供給拡大や子どもの体験学習の機会の拡大への期待の高まりが見られます（2009 年（平成 21 年）農業振興計画策定時の市民アンケート結果による）。
- ・市内の農業高校や大学と地域が連携し草津市独自の「あおばな」の商品開発や「SOFIX」の取組みが進められています。
- ・このような草津市の農業の現状をふまえ、策定された草津市農業振興計画（2016 年（平成 28 年）3 月改訂）では、基本施策に産地強化・草津ブランドの創出、食育と連携した地産地消の推進、直売所の整備等の推進、農に関する情報提供の促進、ふれあいの場の確保と拡大、関係機関との連携強化等が掲げられ、施策に沿った主な取組みが示されています。



近畿最大級の
ビニールハウス群

【草津市農業振興計画（平成28年3月策定）に掲げられた地域再生につながる施策の主な取り組み例】（抜粋）

- ほうれん草や水菜、草津メロン、あおばな等、本市の農産物の効果的なPR
- 草津産農産物の学校給食での利用拡大、次世代を担う子どもたちに地産地消を通じた食育を推進
- 市内スーパーマーケット等との連携、直売所の整備、農に関するイベントや販売に関する情報提供による草津産農産物の市内販売体制の強化
- 農業講習会や農業体験型イベントの開催や市民と農業関係者の交流機会の拡大により、農のあるまちづくりの推進
- 環境配慮型、資源循環型農業の推進
- 農商工連携等による農産物の高付加価値化や6次産業化による新たなビジネスの創出
- 市域を越えた産地形成や農業技術振興センターや大学の研究機関との共同研究等の促進

■農業振興・農業体験施設

烏丸半島の入口に位置する「道の駅草津」では、地元農産物の販売や近江牛や地元野菜を使ったレストランがある他、いちご狩りや芋掘り、ハーブ等の摘み取り体験などの農業体験施設があり、琵琶湖や烏丸半島を訪れる旅行客の休憩やイベント開催等の拠点ともなっています。



道の駅草津の直売所



道の駅に隣接する体験農場

琵琶湖に近く、豊かな農地に囲まれた「草津あおばな館」は、草津産の米や野菜を使った餅類や惣菜、味噌や漬物等の加工場があり、地元の野菜、食品の販売を行っています。また、農業従事者や一般の人が使える調理室や研修室もあり、消費者と生産者の体験交流の場、次世代の農業担い手育成、情報発信拠点施設としての役割も担っています。

これらのほかに、市内にはいちご狩りや野菜の収穫体験の場を提供している農業者があります。



草津あおばな館



草津あおばな館の多目的スペース